

重点推進型共同研究（課題番号：2020N-01）

課題名：自然災害科学に関わる研究者・ステークホルダーとの協働による総合防災学の活用と国際展開に関する研究

研究代表者：益井 俊孝

所属機関名：自然災害研究協議会（京都大学防災研究所）

所内担当者名：渦岡 良介，倉田 真宏

研究期間：令和 2 年 4 月 1 日 ～ 令和 3 年 3 月 31 日

研究場所：京都大学防災研究所ならびに自然災害研究協議会メンバーの研究機関

共同研究参加者数：500 名以上（自然災害研究協議会本部および各地区におけるシンポジウム等参加者数把握分総計）

- ・大学院生の参加状況：100 名以上
- ・大学院生の参加形態 [シンポジウムの聴講，開催補助等]

研究及び教育への波及効果について

自然災害研究協議会各地区部会において主催等された研究シンポジウム・研究集会への参加により，広範研究分野に根ざす自然災害研究者間での学際的・専門的議論に触れることにより，総合科学としての自然災害科学の位置づけを再認識し，各自の研究の位置づけを俯瞰的に見る契機となっている。また，研究シンポジウム・研究集会の企画，運営に携わった学生は，同種のシンポジウム等の実施方法と研究者ネットワーク構築方法を実践的に学ぶこととなり，次代の研究者へ育っていく糧となったと期待する。

研究報告

(1) 目的・趣旨

自然災害研究協議会のマルチハザード，多分野に渡る研究者ネットワークと，防災に関わる様々なステークホルダーとの協働を推進することにより，総合防災学確立のための活動を行うとともに，将来の自然災害に備えた総合防災学の確立を目指すことを目的とする。加えて，世界防災研究所アライアンス（GADRI）と連携し，海外の研究機関との共同研究の中核となるべく，国際展開を図る。

(2) 研究経過の概要

第 57 回自然災害科学総合シンポジウム（テーマ：頻発する風水害と「新しい生活様式」）を令和 2 年 9 月 1 日にオンライン形式で開催した。科学研究費補助金・特別研究促進費による突発災害調査研究，自然災害研究協議会突発災害調査報告，及び防災研究所共同研究・地域防災実践型共同研究の調査報告，進捗状況報告がなされ，情報共有と意見交換を行った。参加者は 108 名であった。また，土木学会水工学委員会との共催による河川災害シンポジウムを令和 2 年 11 月 6 日にオンライン形式で開催し，215 名の参加があった。各地区部会においても研究情報の交換，成果の普及・防災知識の啓発を目的として，各種研究シンポジウム，講演会，研究会を企画・開催した。主なものを以下に示す。防災フォーラム 2020・北見（オンライン開催，令和 3 年 3 月 25 日，パネリスト 6 名），東北地域災害科学研究集会（オンライン開催，令和 2 年 12 月 25～26 日，発表 34 題，公開講演 3 題），彩の国市民科学オープンフォーラム（令和 2 年 12 月 5 日，ウエスタ川越，参加者 85 名，オンライン申込み 138 名），三重大学・伊勢志摩防災アカデミー（令和 2 年 12 月 5 日，12 日，19 日，伊勢市防災センター，参加者 111 名），コミュニティ防災フォーラム（令和 3 年 2 月 20 日，大阪市立大学都市防災教育研究センター，オンライン併用，約 150 名），中国地区部会令和 2 年度研究発表会（令和 3 年 3 月 14 日，オンライン開催，発表 18 題），令和 2 年自然災害フォーラム&第 15 回南海地震四国地域学術シンポジウム（令和 2 年 12 月 18 日，サンポートホール高松，88 名），自然災害研究協議会西部地区部会研究発表会（令和 3 年 2 月 5 日，オンライン開催，参加者 30 名）。なお，新型コロナウイルスの感染拡大防止のためほとんどの行事でオンライン開催となった。

(3) 研究成果の概要

第 57 回自然災害科学総合シンポジウムの概要を記す。科学研究費補助金・特別研究促進費による突発災害調査研究では、「令和元年台風 15 号による停電の長期化に伴う影響と風水害に関する総合調査」（令和元年度、丸山喜久教授・千葉大学大学院工学研究院）、「令和元年台風 19 号及び台風 21 号による広域災害に関する総合研究」（令和元年度、二瓶泰雄教授・東京理科大学理工学部土木工学科）について報告がなされた。続いて令和元年度に自然災害研究協議会から突発災害初動調査等に関してサポートを行った調査研究では、「2019 年 8 月の秋雨前線に伴う豪雨の特徴と佐賀県で発生した洪水災害の概要」（山本晴彦教授・山口大学大学院創成科学研究科）、「Flood triggered oil spills: Lessons from the Natech accident in Saga prefecture in August 2019.」（Ana Maria Cruz 教授・京都大学防災研究所）、「SAR 画像を用いた千曲川氾濫域抽出と浸水深推定」（朝位孝二教授・山口大学大学院創成科学研究科）について報告がなされた。さらに平成 30・31 年度の採択課題である防災研究所共同研究・地域防災実践型共同研究(30R-01)「持続可能な防災まちづくりと防災人材育成に関する研究」（佐藤健教授・東北大学災害科学国際研究所）について報告がなされた。以上の報告に基づき、活発な意見交換がなされた。

(4) 研究成果の公表

第 57 回自然災害総合シンポジウムの発表内容は第 57 回自然災害総合シンポジウム講演論文集として公表済みであり、京大大学術情報リポジトリでも公開されている。また、河川災害シンポジウムや地区部会主催の研究シンポジウム等で多数研究発表がなされ、講演集として発刊されている。